

ジンバブエ経済（経済情報の週間とりまとめ：5月第5週目）

- 1 CBZ 銀行が小規模綿花栽培農家への無担保資金提供を表明
- 2 アフリカ開発銀行年次総会でジンバブエ債務解決に関する会合が開催
- 3 貿易赤字が前月比 49.5%減少
- 4 月間インフレ率は僅かに低下、年間インフレ率は高止まり
- 5 ジンバブエが世界のスタートアップランキングで後退
- 6 アフリカ開発銀行がジンバブエの経済成長を 5%と予測
- 7 通貨変動が小売大手ピクン・ペイ社の利益を侵食
- 8 トラバブラス・インターチェンジ開通式典にムナンガグワ大統領が出席
- 9 旅行者数、投資家居住許可数がともに増加傾向

1 CBZ 銀行が小規模綿花栽培農家への無担保資金提供を表明

CBZ 銀行が、担保を持たない小規模綿花栽培農家に資金を提供すると表明した。カドマで開催された最近の油糧種子会議 (Oilseeds Conference) では、雇用創出と地方の工業化のため、地域レベルでの付加価値投資の必要性が強調された。一方で、多くの農家は、競争促進と収入増加のため、綿花の自主資金調達を訴えている。綿花の多くは契約農業の下で栽培されているが、農家は、契約業者間の競争が限られていることに懸念を表明している。懸念事項には、業者が結託して低価格を提示する可能性や、支払いの遅延、不十分な投入資材の提供などが含まれる。一部業者は農家に十分な投入物を提供せず、収穫期には全収穫物を要求しているという。これにより、サイドマーケティング（正規市場外取引）が発生している。綿花栽培農家は、綿花の種子を入手できれば、独立して綿花を生産できると感じている。農家の自立と綿花産業の活性化のためには、競争市場の創出や綿花加工の国内化が重要である。（28 日付ヘラルド紙ビジネス 2 面）

2 アフリカ開発銀行年次総会でジンバブエ債務解決に関する会合が開催

現在開催中のアフリカ開発銀行 (AfDB) 年次総会で、ジンバブエの滞納金の清算と債務解決プロセスに関するサイドイベントが開催された。世界銀行ジンバブエ事務所のフェルナンデス所長は、ジンバブエ経済の変革に向けた取り組みを評価し、経済活性化のための資金提供を約束した。同所長は、「ジンバブエ政府は経済改革を進めており、世界銀行は準財政活動の終了や ZiG 通貨導入によるインフレ抑制などを評価している。一方で、財政負担の増大も懸念されており、歳入増強と歳出合理化が必要だ。IMF と協議中のスタッフモニタリングプログラム (SMP) により、債務解決への道筋が作られると期待している」と述べた。イベントにはヌーベ財務・経済開発・投資促進大臣らが出席した。（29 日付ヘラルド紙 1 面）

3 貿易赤字が前月比 49.5%減少

ジンバブエ国立統計局 (ZimStat) の発表によると、2025 年 4 月、ジンバブエの輸出額は前月比 13.6%増の 6 億 6260 万米ドルとなった。一方、輸入額は前月比 4.5%減の 7 億 8130 万米ドルとなり、貿易赤字は前月の 2 億 3520 万米ドルから 1 億 1870 万米ドル

へと 49.5%減少した。主要輸出先はアラブ首長国連邦 (49.8%)、南アフリカ (24%)、中国 (15.9%) であり、これら 3 カ国で輸出総額の約 90%を占めている。主要輸出品目は、金の半製品、ニッケルマット、たばこなどである。一方、主要輸入品目は鉱物燃料、機械、穀物、車両などであり、主要輸入国は南アフリカ (37.1%)、中国 (14.5%)、バーレーン (10.4%)、バハマ (7.4%) である。(29 日付ヘラルド紙ビジネス 1 面)

4 月間インフレ率は僅かに低下、年間インフレ率は高止まり

ジンバブエ国立統計局 (ZimStat) によると、2025 年 5 月、ジンバブエの月間インフレ率はわずかに低下し、米ドル建て月間インフレ率は-0.3%、ZiG 建ては 0.9%となった。加重平均月間インフレ率は 0%となり、価格安定に向けた進展を示している。食料・非アルコール飲料、非食料カテゴリー共に米ドル建てでは低下したものの、ZiG 建てでは食料カテゴリーで上昇した。1~5 月の平均月間インフレ率は米ドル建てで 2.4%、ZiG 建てで 2.5%だった。米ドル建て前年比インフレ率は 13.9%、ZiG 建ては 92.1%と依然高いものの、月間インフレ率の低下はポジティブな兆候と言える。(29 日付ヘラルド紙ビジネス 1 面)

5 ジンバブエが世界のスタートアップランキングで後退

2025 年版グローバルスタートアップエコシステム指数 ([Global Startup Ecosystem Index](#)) において、ジンバブエは 118 カ国中 117 位と 8 ランク順位を下げた。起業家にとって必要な資金へのアクセスが制限されていること、信頼できるインターネット接続や電力供給などのインフラ整備が不十分であること、そして複雑で非効率的な規制がビジネスの成長を阻害していることなどが問題点として指摘されている。なお、いくつかのアフリカ諸国は目立ったスタートアップ活動がないためランキング対象外であった。ジンバブエの現状は、アフリカにおけるスタートアップエコシステムの現状を象徴しているとも解釈できる。ジンバブエ政府は、この現状を打破するために、より積極的な政策展開が必要とされていると言える。(29 日付ファイナンシャルガゼット紙 6 面)

6 アフリカ開発銀行がジンバブエの経済成長を 5%と予測

アフリカ開発銀行 (AfDB) が今週発表した「2025 年アフリカ経済展望報告書」によると、2025 年のジンバブエ経済は、農業生産の強い回復とインフラ投資の増加によって支えられて 5%成長すると予測されており、これは南部アフリカ地域全体の予測である 2.2%を大きく上回っている。AfDB は、緊縮財政政策と金融政策を含む政府の経済政策が、2025 年のインフレ率を 16.6%に抑制すると予想しており、また経常収支(対 GDP 比)も、2024 年の 1.4%から 1.6%に改善すると予測している。財政赤字(対 GDP 比)は、2024 年推定 1.3%から 0.7%にわずかに縮小すると予想。AfDB によると、ジンバブエは、エスワティニ、ザンビアと共に、南部アフリカの経済成長をリードすることになるといふ。(30 日付ヘラルド紙ビジネス 1 面)

7 通貨変動が小売大手ピクン・ペイ社の利益を侵食

南アフリカの小売大手ピクン・ペイ社 (Pick n Pay Group Limited) は、2025年3月までの1年間の決算において、ジンバブエの関連会社である TM スーパーマーケットから 5100 万ランドの損失を計上したと報告した。この損失は深刻な通貨変動によるもの。同グループは 2024 年に TM における 49% の持分を完全に減損処理し、帳簿価額をゼロに減額した。ピクン・ペイ社は、ミークルズ (Meikles Limited) の小売部門である TM スーパーマーケットを通じてジンバブエで事業を展開している。このパートナーシップは 74 店舗という堅実な店舗数を維持しているものの、マクロ経済の不安定さが業績を阻害している。(30 日付インディペンデント紙ビジネス 1 面)

8 トラバブラス・インターチェンジ開通式典にムナンガグワ大統領が出席

ムナンガグワ大統領は、ハラレで開催されたトラバブラス・インターチェンジ (Trabablas Interchange。ブジ・インターチェンジから改称) 開通式典において、このプロジェクトがジンバブエのインフラ開発における重要なマイルストーンであり、ビジョン 2030 の実現に不可欠な要素であると述べた。南北回廊の一部である同インターチェンジは、3 本の主要道路を接続し、交通渋滞の緩和、接続性の向上に貢献する。建設には 15 本の主要な橋梁と 18 の構造物が含まれ、2000 人以上の労働者が雇用された。材料の多くは地元調達され、ジンバブエのエンジニアリング技術の高さを示した。大統領は、今後さらに複数のインターチェンジ建設を予定していることを明らかにした。政府は、スマート交通管理システムの導入も進めている。(31 日付ヘラルド紙)

9 旅行者数、投資家居住許可数がともに増加傾向

ジンバブエ移民局のゴノ局長によると、2025 年第 1 四半期の旅行移動者数は前年同期比 17% 増の 2, 095, 649 件を記録した。これは、豊富な資源と政策改革による国の開放性への評価の高まりを示している。投資家居住許可も増加しており、投資家の信頼の高まりを示している。一方、不法移民への取り締まりも強化され、「遵守または退去」キャンペーンによる作戦実施件数と逮捕者数は増加したものの、国外退去者数は減少している。ゴノ局長は、安全で秩序だった移住の維持と、移住を経済発展の原動力として活用することで、2030 年までに中間所得国以上の経済を実現するというビジョン達成に近づいていると述べている。(31 日付ヘラルド紙 1 面)